

「雑筆要集」を中心とする
日本中世文例集史料の研究

上杉 和彦

The research of the model sentences material of the
Japanese medieval ages centered on “Zappitsu
Yōshū”

Kazuhiko Uesugi

『雑筆要集』は、鎌倉初期成立と推定される編者不詳の文例集史料である。網羅性の高い日本中世文例集であるだけでなく、具体的な内容を持つ文書史料を含むことから重要視されてきたが、用いられるテキストが、極めて質の悪い読群書類従本に限定されていたため、必ずしも十分な活用をされてきたとはいえない。本研究では、『雑筆要集』の本文確定と書誌学的検討のための基本的な前提を構築することを目指している。

ここでは経過報告として、1年目に収集調査済み、もしくはそれに準ずる諸本の概要を記すこととする。

(1)内閣文庫本

①押小路家献納本

慶安元年（1648）8月押小路師定が徳大寺公信蔵本より書写したもの。

②坊城俊将旧蔵本

享保5年（1720）8月12日坊城俊将が押小路師貫（師定の曾孫）蔵本を書写したもの。統群書類従本の原本と推定される。

③統群書類従本

享保5年（1720）8月12日以後の成立で、上の②を元に数本で校訂されたものか。

④『摂津徴』巻117

浅井幽清による摂津国関連文書八通の抜書。住吉神社の印・明治19年（1896）11月の年記あり。

(2)東京大学史料編纂所本

①徳大寺家旧蔵本

徳大寺家の蔵書印あり。「書札礼事」（「弘安礼節」と同史料，以下同）を合載。

②彰考館文庫本写真帳

慶安4年（1651）8月7日壬生忠利蔵本を藤原隆貞が書写したもの。「書札礼事」を合載。

(3)桜山文庫本

天保6年（1835）竹屋光棣蔵本より書写。足代弘訓の奥書あり，昭和女子大学図書館所蔵。鹿島神宮神官鹿島則幸旧蔵。

(4)京都大学本

菊亭家伝来。近世写。「書札礼事」を合載。

(5)高野山大学図書館本

高野山大学図書館蔵。随心院の印あり。

(6)田中穰旧蔵本

国立歴史民俗博物館所蔵。近世前期写。